

特集

# 社会資本の ストック効果 ～ストック効果の最大化、見える化～

社会資本整備の効果には、フロー効果とストック効果があります。フロー効果とは、公共投資の事業自体により生産、雇用、消費等の経済活動が派生的に創出され、短期的に経済全体を拡大させる効果であり、ストック効果とは整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果で、安全・安心効果、生活の質の向上効果、生産性向上効果があります。

また、ストック効果は、その効果を直接の利用者が受ける場合（「直接効果」という）と、直接の利用者からいくつかの段階を経て最終的に効果が現れる場合（「間接効果」という）に分けられます。例えば、高速道路の開通によって、目的地までの所要時間が短縮される、という効果は直接効果、交通が便利になったことで観光客が増大する、という効果は間接効果となります。

社会資本のストック効果の最大化を図ることを基本理念とする第4次社会資本整備重点計画に続き、第5次社会資本整備重点計画が2021年5月に閣議決定され、国土交通省では、この計画を踏まえ、「主体の総力」「手段の総力」「時間軸の総力」の3つの総力を挙げて社会資本整備に取り組むことで、ストック効果を最大化させていくこととしています。

ストック効果を最大限発揮するためには、ストック効果を積極的に幅広く把握、「見える化」し、効果を高める工夫と有機的に連携させることが必要であります。また、このため、これまで行ってきた発生ベースでの便益の総量の把握にあわせ、ストック効果が具体的にどう発現しているかという観点から、発現した多様な効果を客観的・定量的に把握するとともに、こうした効果を地域に対して分かりやすく伝え、「見せる化」することが重要です。

今号の特集では「ストック効果の最大化に向けて」について概説するとともに、地方整備局・地方公共団体で取り組んでいるストック効果の「最大化」や「見える化・見せる化」等の事例について紹介します。

特集担当：伊藤 直樹  
(国土交通省 港湾局 技術企画課 技術監理室 専門官)



令和3年7月の大雨で効果を発揮した川内川の推込分水路  
(本号 P21～23「防災・減災、国土強靱化に資する治水対策」より)





## CONTENTS

ストック効果の最大化に向けて	8
第二京阪道路における開通後のストック効果	12
E10東九州自動車道（北九州市～宮崎市）開通5年後のストック効果	15
有明海沿岸道路の整備効果	18
防災・減災、国土強靱化に資する治水対策	21
旭川放水路（百間川）と岡山市街地の発展	24
古都を水害から守る「いろは呑龍トンネル」の整備効果	27
地域の基幹産業の競争力強化のための港湾整備によるストック効果	30
衛生管理型漁港整備に伴う水産物輸出のストック効果	33